

# 誤嚥性窒息死のない世の中へ！命の危険が潜む夜間労働者(個人・団体)に愛と光を!!

## 連載 118 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長 橋本 満義 (67歳・内科)

当院の看護師が他事業所属のグループホームで、誤嚥性窒息患者さんの命を救う。

その日、担当患者さんの訪問看護の業務で、たまたまその施設に居合わせた当院の看護師のもとへ、「看護師さん！」と叫びながら、慌ただしく施設の職員が駆け寄ってきました。どうやら他の患者さんが誤嚥をしたようです。

急いで、誤嚥をしたA.Hさん(89歳、脳梗塞後遺症、要介護②)のもとへ駆けつけてみると、意識障害や痙攣を引き起こしており、急性呼吸不全の状態

で、命の危険がありました。時刻は正午を過ぎたところで、昼食時の誤嚥によるものと容易に推測できました。

最初に「背部殴打法」を施行してみましたが、除去できず、直ちに「腹部突き上げ法」を行ったのです。すると、里芋とご飯が気管から排出されました。やがて、徐々に顔色も良くなり、チアノーゼが改善され始めました。当初30パーセント台だったSpO2<sup>※</sup>も、そのころには90パーセント台となったのです。

医師の指示により、生命の危機時に行う「ショック状態の治療・点滴」を施

行すると同時に、高度機能病院へ救急搬送したところ、特に異常もなく、その後、施設へとA.Hさんはもどられました。

当院の「安全・安心健康塾」で研修を受けていた看護師だからこそ、迅速かつ冷静に対処できたのだと、改めて思います。

※SpO2  
SpO2とは、経皮的動脈血酸素飽和度(血液中「動脈血」にどの程度の酸素が含まれているかを示す度数)のことです。  
正常値は96%~99%です。  
異常値である90~95%では、通常の在宅酸素などの治療を行います。  
90%未満になると、生命の危険・呼吸不全となり、救急搬送を要します。

国の方針と私たちの活動

救急隊に引き継ぐまでにできること(窒息や心停止は時間との勝負)

“5分間の壁が生と死のはざ間”

安全・安心健康塾(松山市、中予全般でボランティア活動中)

救命の曲線 救急隊が到着する平均時間7分

救命の可能性 (%)

心停止から救急処置の開始時間 (分)

命のリレーをつなぐ第一走者は、あなたです!

① 上腹部を圧迫する 腹部突き上げ法-ハイムリック法(成人・小児)

背後から腹部にこぶしを当て、力を込めて突き上げます。  
※妊婦(明らかに腹部が大きい場合)や高度な肥満者、乳児には行いません。

② 胸部を圧迫する 胸部突き上げ法

乳児の場合は、乳児をおおむけにし、頭を下に、後頭部と首(頸部)を支え、指2本で胸の真ん中(胸骨の下半分)を数回強く圧迫します。  
妊娠中または肥満である場合は、腹部突き上げ法ではなく、胸部突き上げ法を行います。

# ～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉  
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)  
現場の人達を救命救急士として教育する  
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。

外来診療(かかりつけ医) 要予約

総合内科・漢方診療科

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応(松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 22名(常勤8名、非常勤14名)  
内科・外科専門医 18名(国立がんセンター研修生3名)  
精神科専門医 2名(ペインクリニック科)  
麻酔科専門医 2名  
末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所  
(医)東西会 千舟町クリニック  
松山市千舟町6-4-9 ☎089-933-3788 <http://www.touzaikai.jp/>